



八戸市男女共同参画
シンボルマーク

平成 22 年度

八戸市民の男女共同参画に関する意識調査

結果報告書【概要版】

八 戸 市

目 次

1. 調査の目的と概要	1
2. 回答者の属性	2
3. 主な調査結果	3
(1) 分野別平等感	3
(2) 「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識	4
(3) 職場での仕事の内容や待遇面での男女差	5
(4) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に対する希望と現状	6
(5) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加していくために必要なこと ..	7
(6) 出生率の低下や少子化の原因	8
(7) 男女間における暴力の有無	9
(8) 男女共同参画社会に関する言葉の周知状況	10
(9) 八戸市が力を入れるべきこと	11

1. 調査の目的と概要

(1) 調査の目的

八戸市は、性別にとらわれず、一人ひとりが個人として尊重される男女共同参画社会の実現を目指しています。

現在の八戸市の男女共同参画基本計画「男女共同参画社会をめざす はちのへプラン 2006」の計画期間は平成 18 年度から平成 23 年度までとなっていることから、計画期間を平成 24 年度からとする（新）基本計画の策定作業を平成 22 年度から平成 23 年度にかけて行うにあたり、現実在即したより実効性があるもの、また、市民の期待に応える計画とすることを旨とするため、男女共同参画に関する考えや意見、取組の現状等実態把握に努めるためにアンケート調査を実施しました。

(2) 主な調査項目

- ・男女の地位に関する意識について
- ・働くことについて
- ・家庭生活等に関することについて
- ・少子化について
- ・異性に対する暴力等について
- ・男女共同参画社会の形成に関する意識について

(3) 調査対象

八戸市に居住している 20 歳以上の八戸市民 3,000 人
(八戸市住民基本台帳より、八戸市に居住している 20 歳以上の市民から無作為抽出)

(4) 調査期間

平成 22 年 7 月 9 日から 8 月 16 日まで

(5) 回収状況

有効回収数 1,546 件（有効回収率 51.5%）

2. 回答者の属性

(1) 性別

回答者のうち性別は「男性」が 43.5% 「女性」が 55.6%と女性の割合が高くなっています。

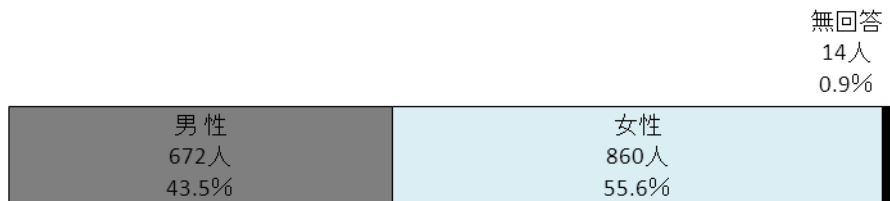


図1 性別

(2) 年齢

回答者の年齢構成は、60代が 21.4%で最も多い割合を占め、次いで「50代 (20.6%)」、「40代 (16.2%)」となっています。

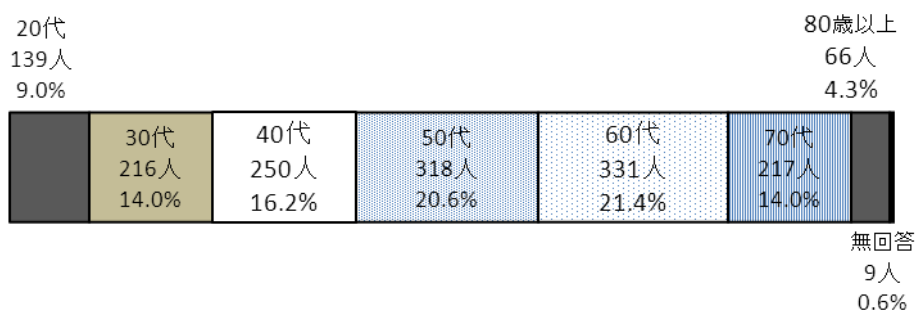


図2 年齢

(3) 職業

回答の職業は「会社員」が 22.3%と最も多い割合を占め、次いで、「無職」が 21.8%、家事専業（主婦・主夫等）」が 18.8%となっています。

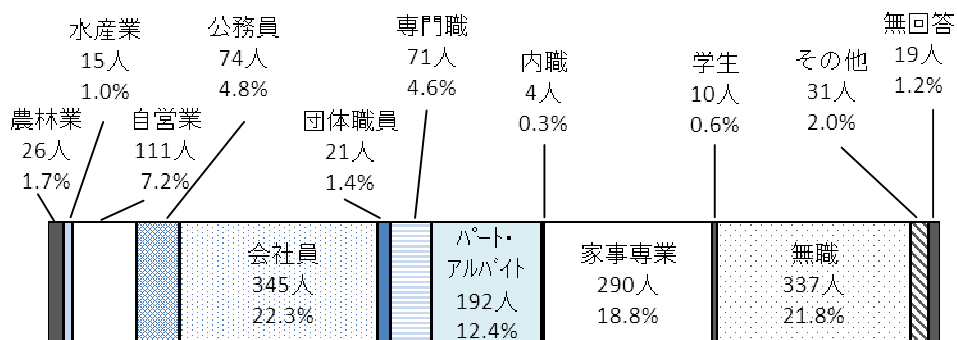


図3 職業

3. 主な調査結果

(1) 分野別平等感

問 あなたは、【家庭生活】【職場】【学校教育の場】【政治の場】【法律や制度の上】【社会通念・慣習・しきたりなど】【地域活動の場】で男女は一般的に平等になっていると思いますか。

分野別で「男性の方が優遇されている」又は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた割合が最も高かったのは「社会通念・慣習・しきたりなど」71.3%でした。一方、「平等」と答えた割合が最も高かったのは「学校教育の場」60.4%でした。

【社会通念・慣習・しきたりなど】

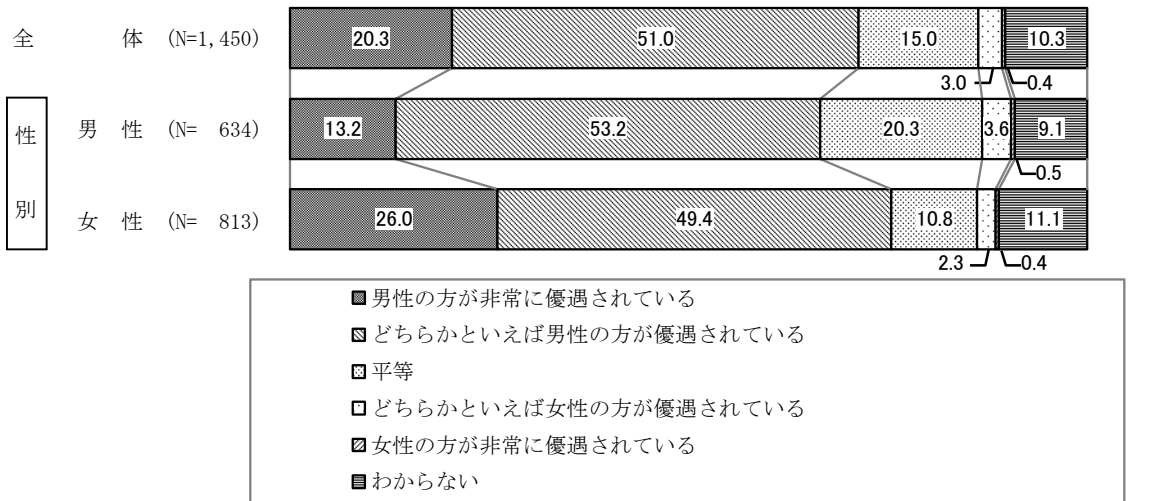


図4 分野別平等感「社会通念・慣習・しきたりなど」

【学校教育の場】

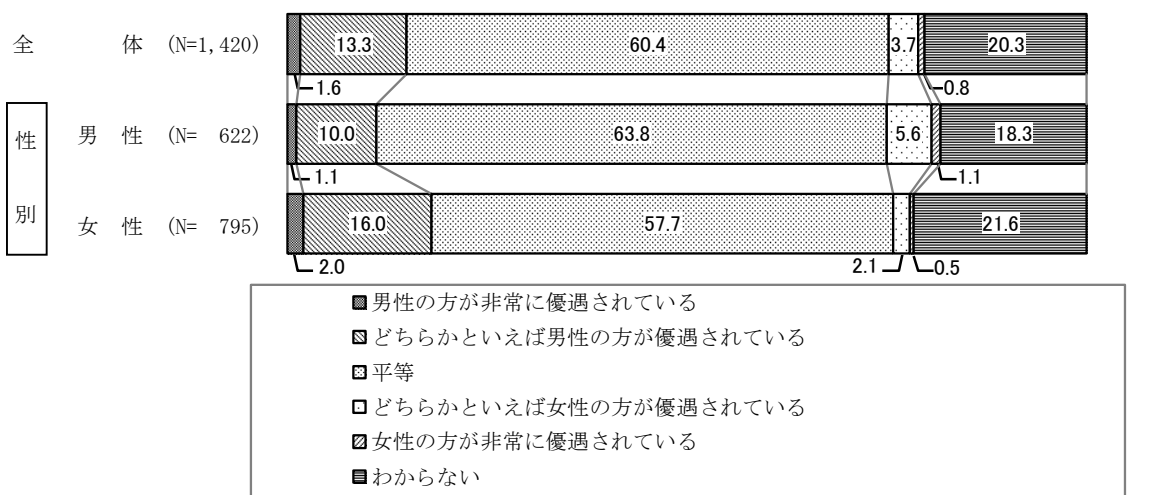


図5 分野別平等感「学校教育の場」

(2) 「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識

問 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

「同感しない」（どちらかといえば同感しないを含む）と答えた割合のほうが高いが、依然、「同感する」（どちらかといえば同感するを含む）と答えた割合が 43.4% ありました。

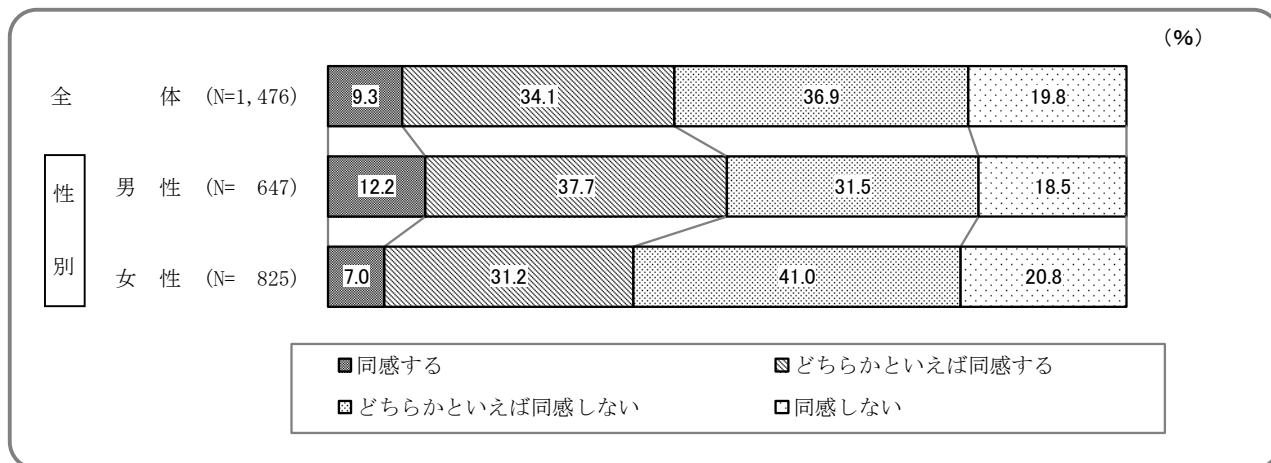


図 6 固定的性別役割分担意識

(3) 職場での仕事の内容や待遇面での男女差

問 働いている方にお聞きします。あなたの職場では仕事の内容や待遇の面で、次のようなことがありますか。（複数回答）

男性、女性ともに約5人に1人が「特にない」と答えていますが、「性別により配置場所が限られている」、「賃金に男女差がある」、「女性が昇進・昇格しづらい」と答えた割合が1割超ありました。

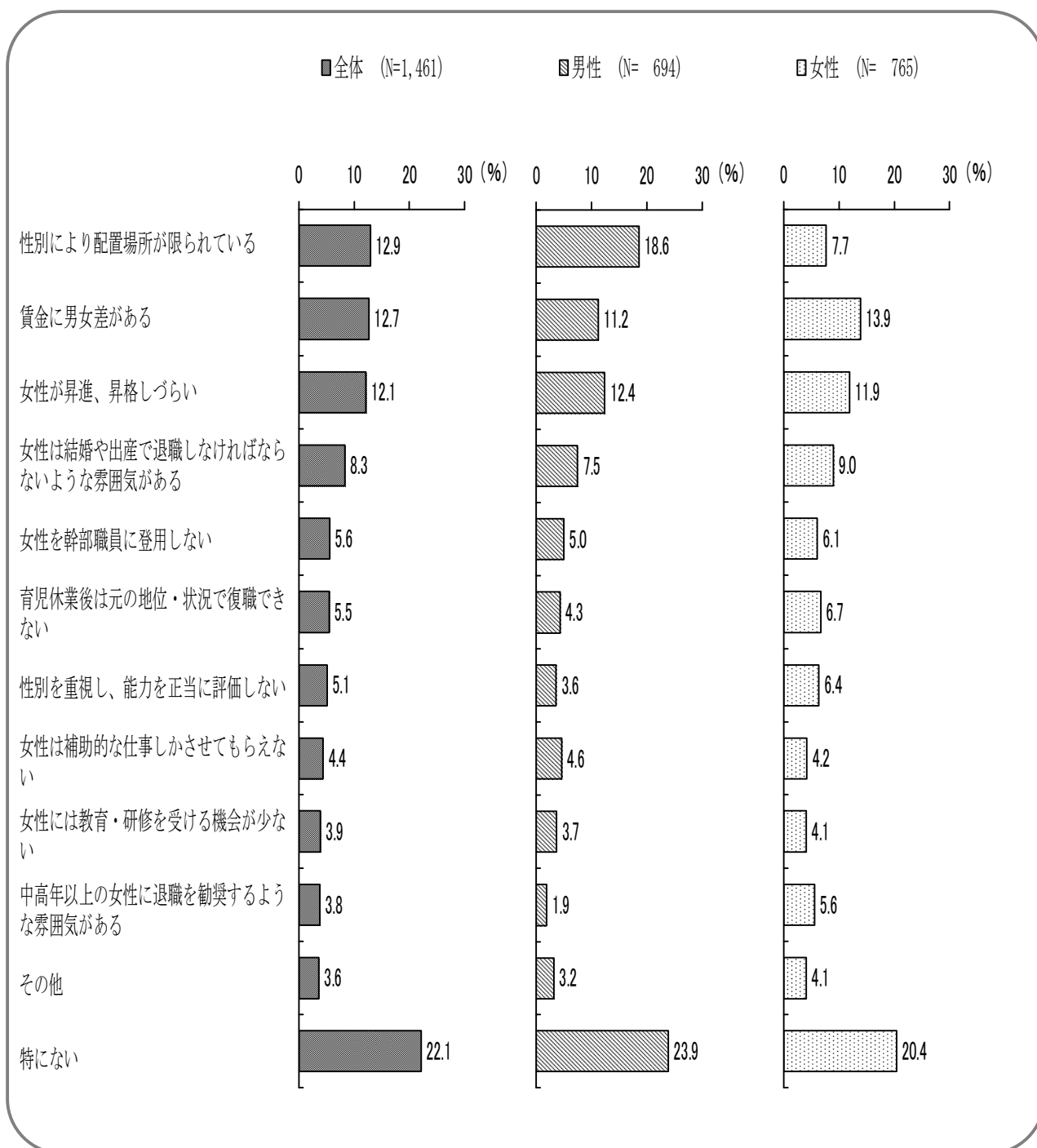


図7 職場での仕事の内容や待遇面での男女差

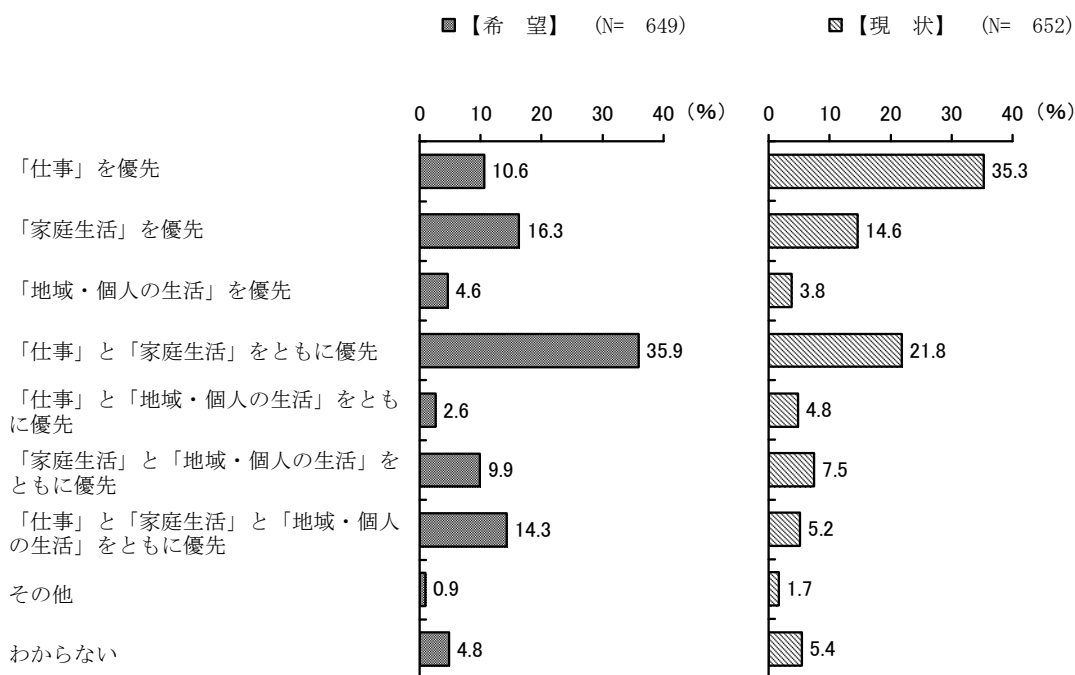
(4) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に対する希望と現状

問 あなたの「希望」「現状」に最も近いものを選んでください。

男性、女性ともに、希望は「仕事と家庭生活を優先」が男性 35.9%、女性 29.2%と最も高い結果となりました。

現状は、男性が「仕事を優先」（35.3%・希望中4位）と答えた割合が最も高く、女性は、「家庭生活を優先」（37.3%・希望中2位）でした。

男性



女性

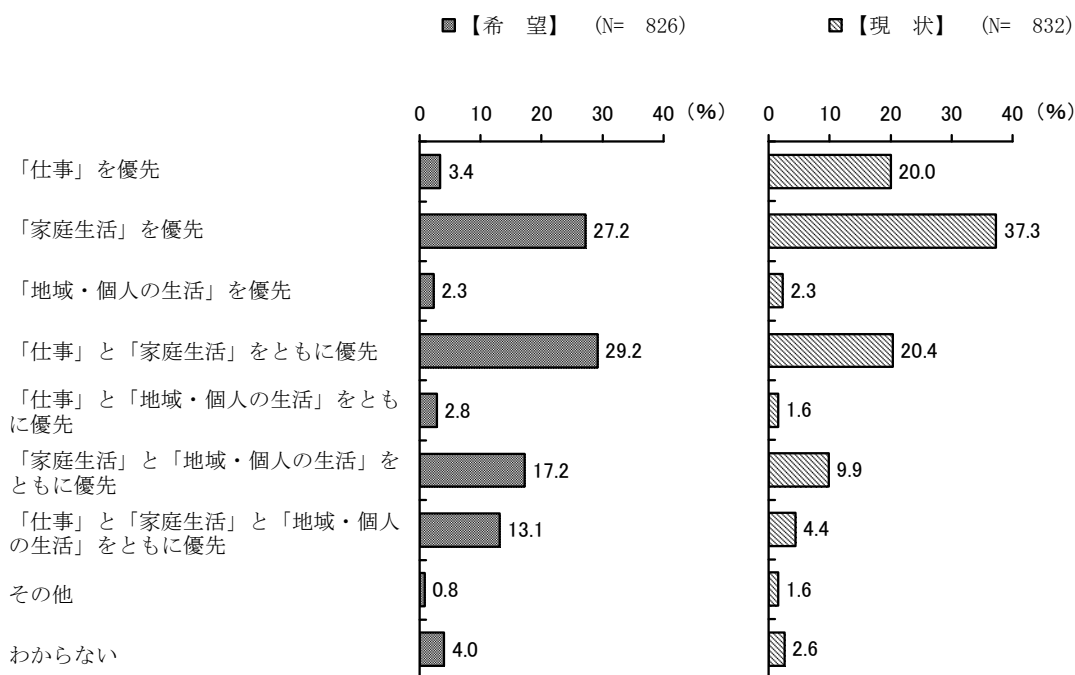


図8 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」に対する希望と現状

(5) 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加していくために必要なこと

問 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

男性、女性ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーション」と答えた割合が最も高く、約2割でした。次いで、男性は「労働時間の短縮（13.0%）」、女性は「家事に対する男性の抵抗感解消（15.3%）」となっています。

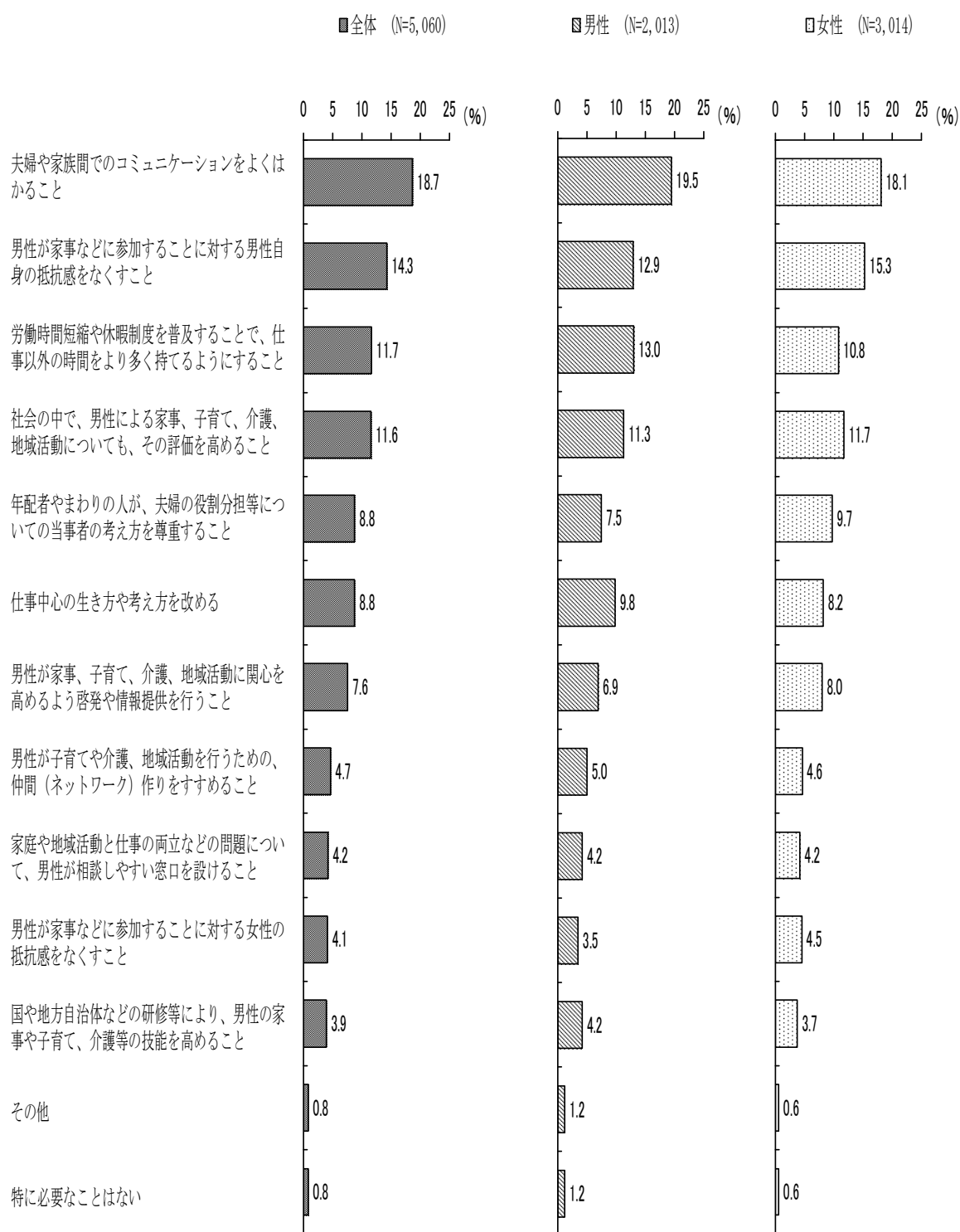


図9 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加していくために必要なこと

(6) 出生率の低下や少子化の原因

問 出生率の低下や少子化の原因は何だと思いますか。(複数回答)

男性、女性ともに約4人に1人が「育児・教育費の経済的負担が大きい」と答えており、次いで、「収入が不安定で家庭がもてない(14.8%)」、「子育てを支援する施設や制度が十分でない(13.6%)」となっています。

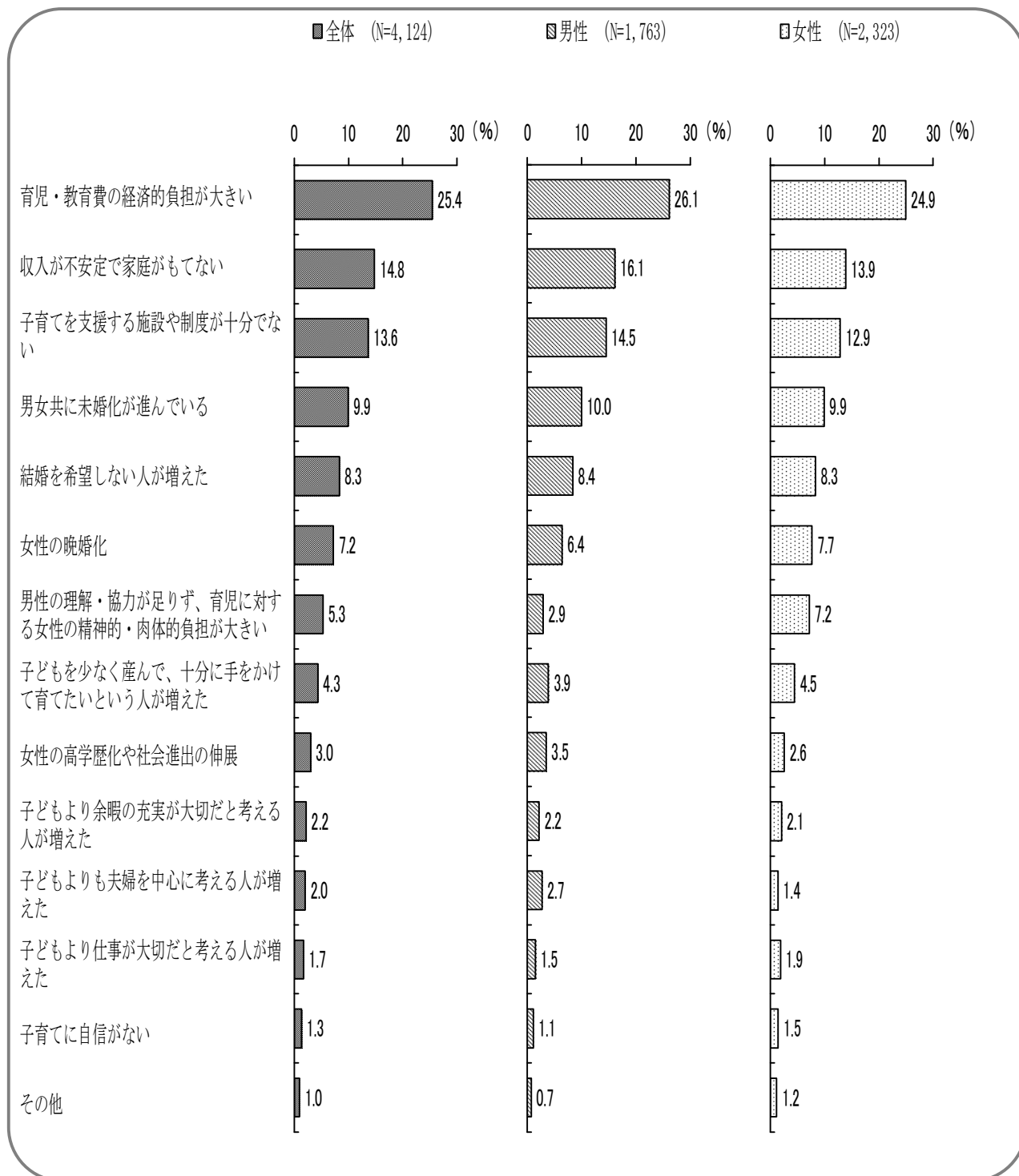


図10 出生率の低下や少子化の原因

(7) 男女間における暴力の有無

問 あなたは、男女間における暴力について見聞きしたことがありますか。(複数回答)

「自分が直接経験した」と答えた割合は、男性 2.0%、女性 5.8%でした。また、「身近に暴力を受けた当事者がいる」は、男性 5.3%、女性 10.2%、「身近な人から被害に関する相談を受けた」は男性 2.8%、女性 4.2%でした。

また、暴力被害者の相談率は、男性 11.7%、女性 35.7%となっています。

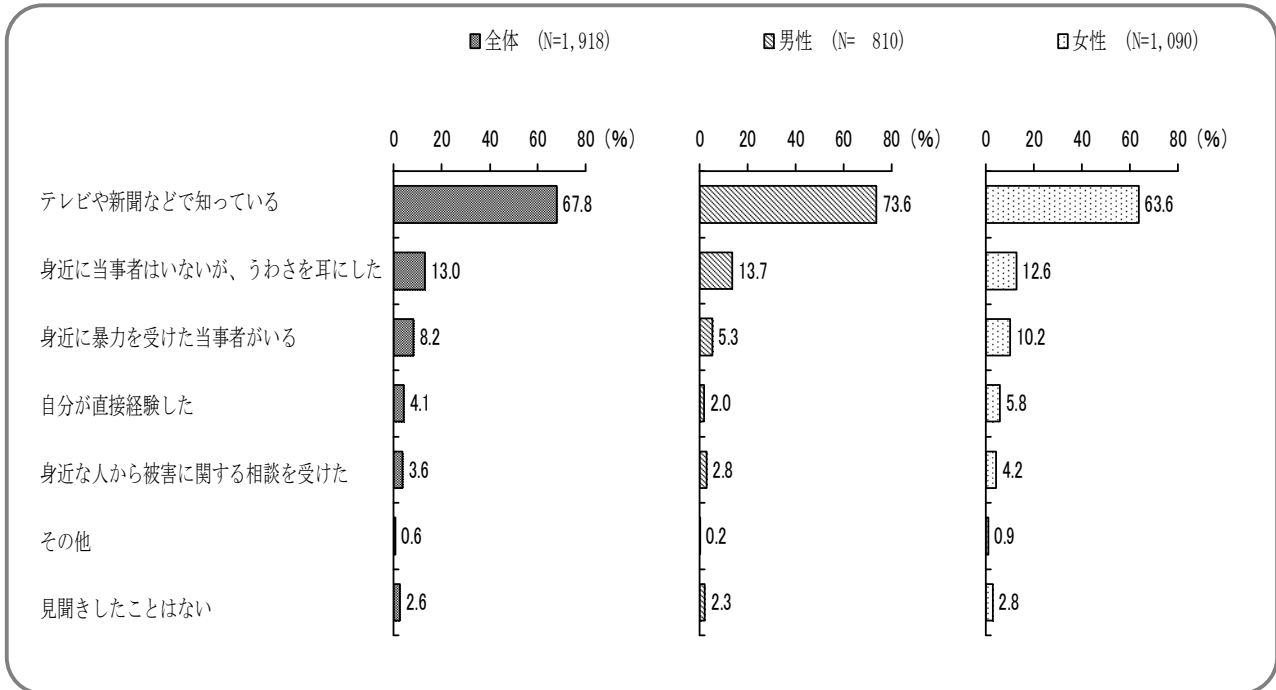


図 11 男女間の暴力について見聞きしたことの有無

問 「異性（配偶者や恋人）から暴力等をされたことがある」と答えた方にお聞きします。その時、だれかに打ち明けたり相談したりしましたか。

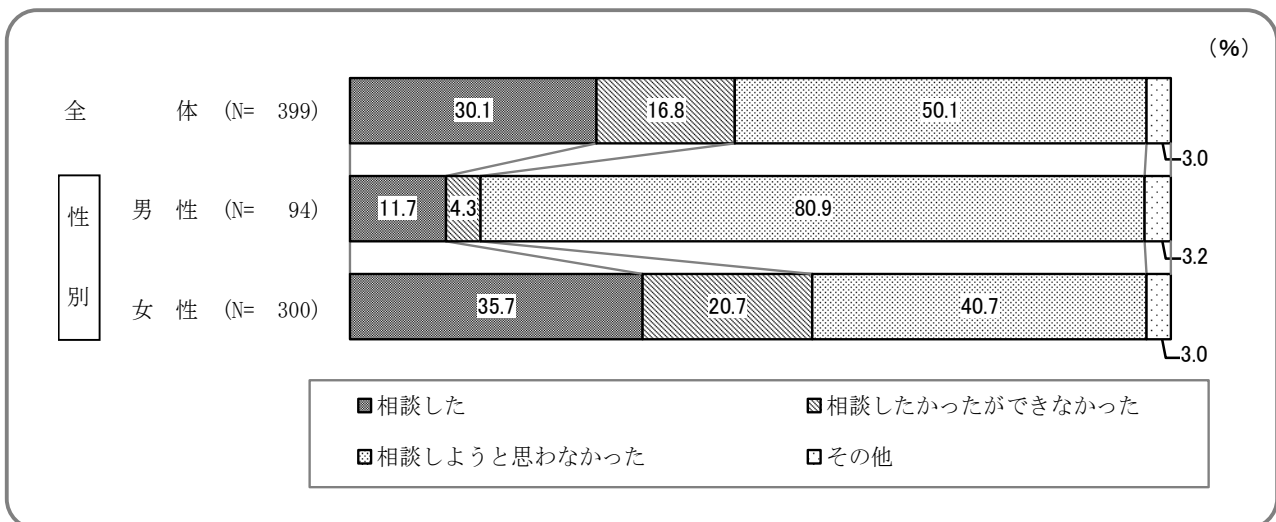


図 12 異性から暴力等を受けた時の相談の有無

(8) 男女共同参画社会に関する言葉の周知状況

問 あなたは、【八戸市男女共同参画基本条例】、【ワーク・ライフ・バランス】の言葉を知っていますか。

どちらの言葉も、男性、女性ともに「知らない」と答えた割合が最も高く、6割を超えています。

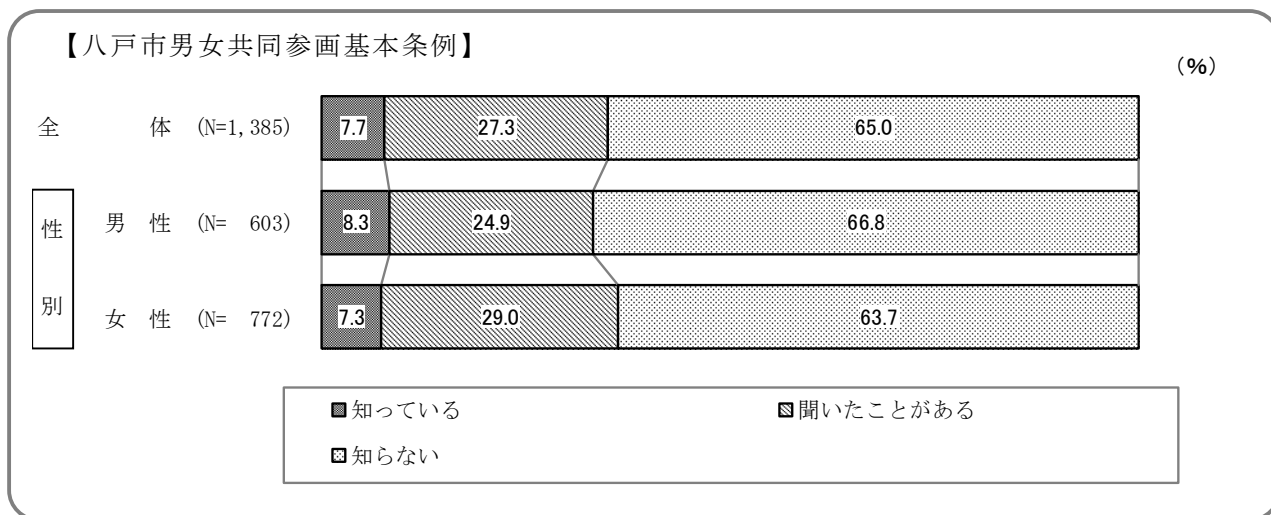


図13 「八戸市男女共同参画基本条例」の言葉の周知度

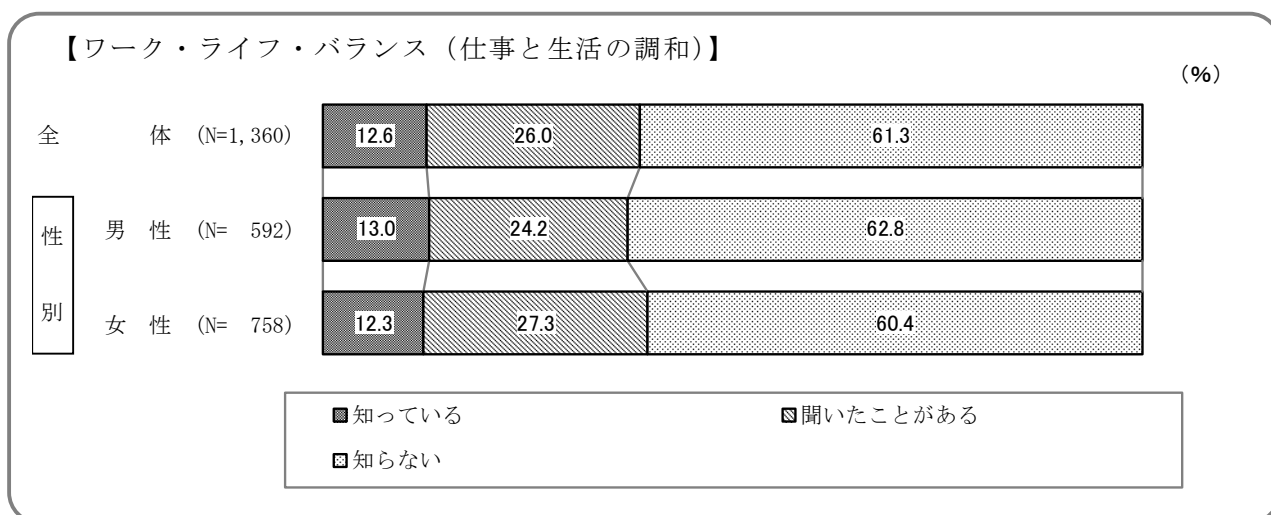


図14 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の言葉の周知度

(9) 八戸市が力を入れるべきこと

問 男女共同参画社会実現のために、今後、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

男性、女性ともに最も力を入れるべきと回答したのは、「仕事と育児等の両立のための労働環境の整備（14.2%）」でした。次いで、「子育てしやすい環境の整備（12.1%）」となっています。

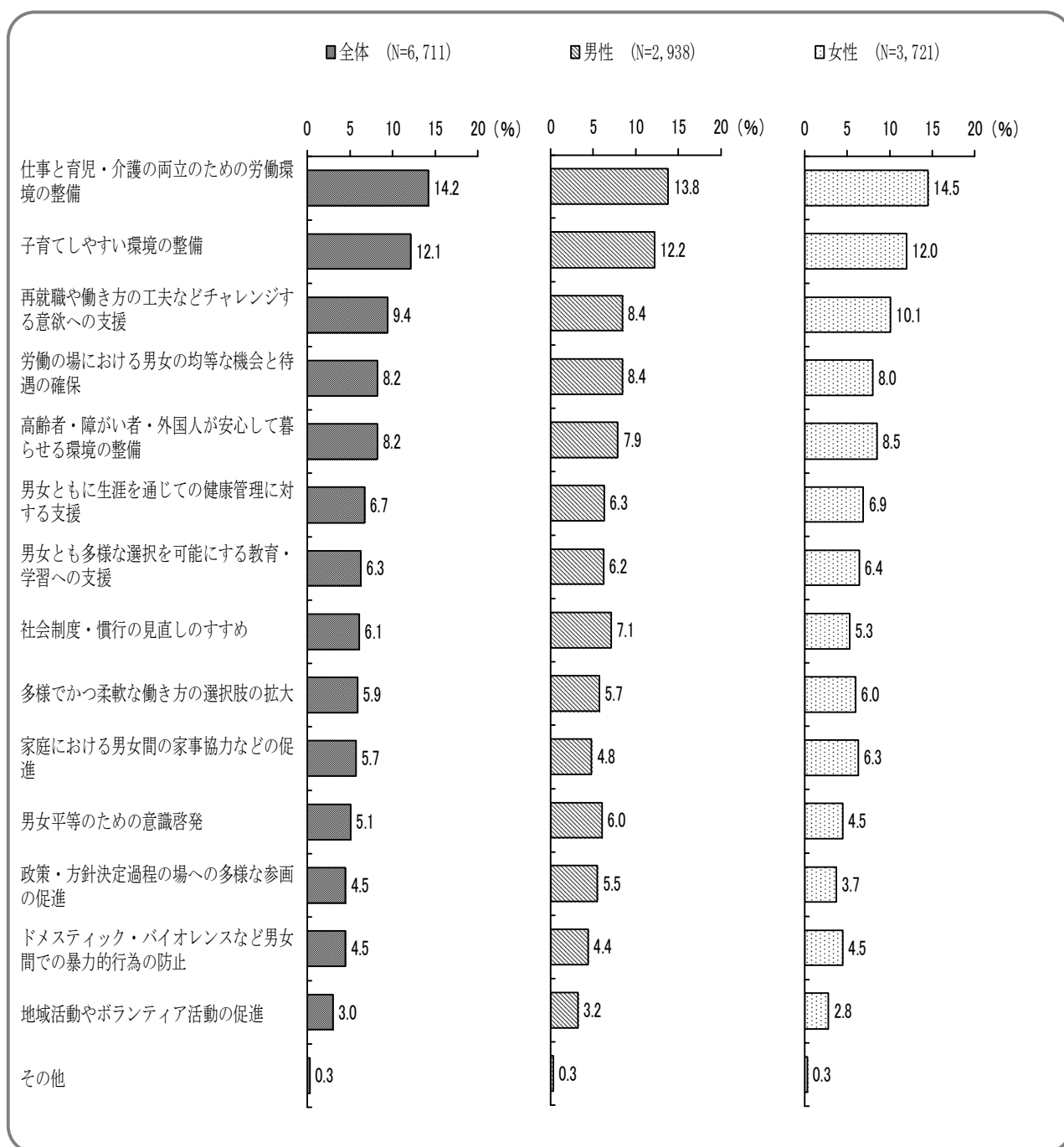


図 15 八戸市が力を入れるべきこと

企画 八戸市総合政策部市民連携推進課男女共同参画グループ
〒031-8686 八戸市内丸一丁目1番1号
TEL : 0178-43-9217 / FAX : 0178-47-1485
電子メール : renkei@city.hachinohe.aomori.jp

受託事業所 株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所